熊野本宮社（くまのほんぐうしゃ）

所在地：名取市高舘熊野堂字五反田 34

Ⅱ-4-①

本宮社は、本宮十二神とも呼ばれ作物の神です。現在地には、万治元年(1658)に移されたといわれており、以前は、小館といわれる山の上にあったと伝えられています。

文安年間(1144～1148)に山伏から伝えられたという獅子舞踊が市指定無形民俗文化財になっており、毎年春と秋のお祭りで披露されます。

以前は、浜降り神事と称し、北釜までみこし渡御を行ったり、熊野神社(旧新宮社)と一緒にやぶさめも行われていましたが、現在では行われなくなり２年に１回氏子がいる地区をみこし渡御するだけになってしまいました。

Ⅱ-4-①

Ⅱ-4-②-a

Ⅱ-4-②-a

熊野本宮社付属獅子舞踊

Ⅱ-4-②-a

熊野那智神社（くまのなちじんじゃ）

所在地：名取市高舘吉田字館山 8

Ⅱ-5-①

Ⅱ-5-②-c

Ⅱ-5-②-a

名取の那智の滝

Ⅱ-5-②-a

Ⅱ-5-②-b

お浜降りの神事

(平成10年7月25日)

Ⅱ-5-②-b

那智神社は五穀豊穣・豊漁などの神様として信仰の範囲が広く、言い伝えによると養老3年（719）関上の漁夫が海底からご神体を得て高舘山頂にお宮を建て羽黒大権現として祀りました。その後、名取老女の熊野三社勧請にあたり、那智の分霊を当山に合祀したことから熊野那智神社と改称しました。

以前は、毎年ご神体をみこしに乗せて関上までみこし渡御を行っていました。お浜降りの神事といわれるこの行事は、現在では護殿の事情からほとんど行われていません。

Ⅱ-5-①

熊野那智神社　懸仏（かけぼとけ）・銅鏡（どうきょう）

所在地：名取市高舘吉田字館山 8

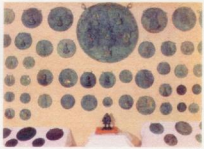
所有者：熊野那智神社蔵

平安時代中頃より、神仏混合の思想が発達するとともに神社にまつられていた鏡に本地仏を表現して信仰の対象としたものを懸仏と称し、本来は御正体といった。

この懸仏及び銅鏡は、明治31年(1898)7月25日、熊野那智神社参道拡張工事に付随し、社殿を後方に移す作業を行っていたが、その舞殿の床下から杉の皮に包まれた状況で 160余り発見された。

現在、そのうちの 41 面(懸仏37面・銅鏡4面)が国の重要文化財に指定されており、残りの 114面は県指定の文化財である。

Ⅱ-5-③



Ⅱ-5-③